

## 11-3

## 松本城整備計画について(1)

平成11年策定された「松本城およびその周辺整備計画」に沿って松本城の整備が進められています。この整備計画は文化庁の指導のもと、史跡松本城整備委員会の指導助言を受けて松本市教育委員会が策定したものです。整備箇所は18項目におよびます。今回と次回に分けて見て参りたいと思います。

1. 次の文章は「当整備計画」の中で整備の意義を述べた箇所ですが( )に適切な言葉を下から選んで番号を記入しなさい。(正解は当整備計画の文と一致するものとします)

- (1) 松本城は日本を代表する貴重な文化財であるとともに、地方自治の中核として、人々の暮らしと文化を培ってきた歴史的な経過があり、今後も松本市の( )として、広く後世に引き継ぐ責任と使命を持っている。
- (2) 松本城は、市民のかけがえのない( )であり松本市の発展を担う重要な役割を持っていることから、積極的に歴史的な景観保護と整備に取り組む必要がある。

- ①財産                      ②観光資源                      ③象徴                      ④遺構

2. 整備方法は諸条件に応じて次の4つの方法によるとしています。(1)復元(2)平面表示(3)説明板による表示(4)その他です。さて建築物、構築物の復元に当たっては3つの基準を満たすことが必要ですが( )にあう条件を入れなさい。

ア、発掘調査により( )が確認できること。

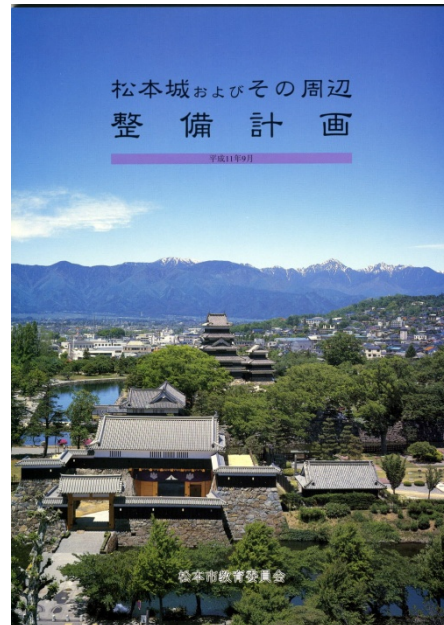
イ、指図(設計図)又は指図相当の資料があること

ウ、( )資料があること。

- ①文献                      ②絵図                      ③遺構                      ④写真                      ⑤伝承

- 3 復元の歴史的時期をいつにするかは最も重要な事項です。創建当時なのか、江戸時代初頭なのかを決めて復元にかからないと問題が生じます。建築物は焼失、建て替え、破壊等が伴いますからどの時期にするかを決めて復元します。松本城の場合正しいものに○をつけなさい。

- ①天守5棟がそろった寛永11年頃                      ②本丸御殿焼失前の享保11年頃  
③幕末維新时期                      ④文禄2年から3年、天守創建当時



4 「(1) 管理棟の撤去」については事務所改築に当たっては「史跡松本城整備計画」に基づいて、周辺の整備が整い次第、警備員詰所など必要最小限の建物を除いて、本丸庭園内より撤去するという文化庁との確認書に基づき撤去することと、もう一つ理由が上げられているいます。次のうちどれでしょう。

- ①黒門をくぐると管理事務所の建物が正面に見え、本丸の第一印象として好ましくない。
- ②江戸期の本丸御殿への通路は黒門から真北に向かって伸びており管理事務所の建物はそれを妨げている。

5 「(2) 本丸御殿の整備」発掘によって遺構を確かめ、本丸御殿跡を平面表示する。」

とあり本丸御殿の復元は計画されていません。

その理由は为什么呢。

- ① 見積りの結果本丸御殿は復元費用が莫大であるから。
- ② 御殿の絵図、写真がないから。
- ③ 「松本城の復元時期」として設定された時代には、本丸御殿は焼失したまま復元されていなかったから。



6 「(3) 北外堀の内側石垣の補修」本丸庭園北側に連なるの内堀の石垣は、所々に「せりだし」が見られ、石の崩落もあり補修を必要としています。「せりだし」の最大の原因として考えられるのはどれでしょう。

- ①ケヤキ等の樹木の根の肥大
- ②裏込め石の劣化による雨水の浸透
- ③石垣の一番下の根石の下にある桐木の腐敗
- ④石垣の石と石の間の間詰石の落下

7 「(4) 多間櫓・折廻し櫓の復元」多間櫓は本丸東側の壘上にあつた。城壁にもなった単層の櫓で武器庫にもなった。折廻し櫓は本丸北東隅にあつたL字型の櫓をいう。この部分は発掘がまだなされていないし写真も見つかっていない。しかし、文献によって長さや規模はわかっています。その文献とはなんでしょう。

- ①善光寺道名所図会
- ②太守累代記
- ③信府統記
- ④戸田家家譜

8 「(5) 足駄塀の復元」現在、埋橋のある位置に絵のように足駄塀があつた。足駄塀を復元しようとする本当の意味は何か。

- ① 内堀と外堀を区切る「目隠し」である防備施設を復元し、資料に基づかない埋橋を撤去するため。
- ② 全国の城郭でも珍しい足駄塀を復元し構造の精緻さと水準の高い技術をみることのできる観光ポットとするため。

